

I 章 久留米市のスポーツ政策の現状と課題

1. 前久留米市スポーツ推進計画(前計画)の検証

(1) 前計画の概要

① 基本理念

「活力あふれる市民スポーツの振興と豊かなスポーツライフの創造・地域づくり」

② 基本方針

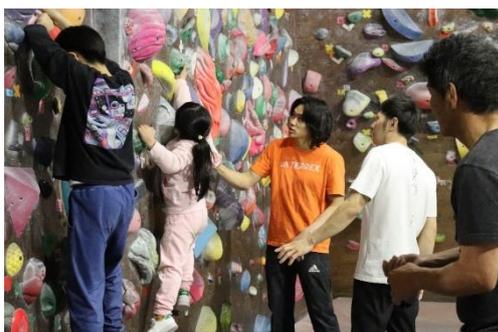
前計画では、各施策を展開するにあたり、次の3点を基本方針としました。

- I スポーツ参画人口の拡大
- II スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実
- III スポーツを通じた、活力があり絆の強い社会の実現

③ 施策の体系

基本方針ごとに施策の方向性を定め、それぞれに具体的施策を展開しました。

基本方針		施策の方向性		具体的施策
I	スポーツ参画人口の拡大	A	スポーツを「する」市民の拡大	1. スポーツ機会の提供・充実 2. 学校体育及び部活動の充実 3. アスリートの競技力向上
II	スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実	B	スポーツ「人材」の充実	1. 指導者の育成・支援 2. スポーツ関連団体の組織強化・連携
		C	スポーツ「場」の充実	1. スポーツ施設の充実 2. スポーツを身近にできる場の確保
III	スポーツを通じた、活力があり絆の強い社会の実現	D	スポーツを通じた、生きがいもてる社会の実現	1. 生きがい・仲間づくりの推進 2. 健康づくりの推進 3. 障害者スポーツの普及促進
		E	スポーツを活かした地域の活性化	1. スポーツコンベンションによる地域活性化 2. 観戦型スポーツイベントの充実 3. スポーツ関連情報の発信



ボルダリング教室



アジャタ(スポーツ玉入れ)

(2) 施策の方向性ごとの検証及び総括

前計画を構成する施策の方向性ごとに、取組と課題を次のとおり総括します。

施策の方向性A スポーツを「する」市民の拡大

具体的施策	主な取組
1. スポーツ機会の提供・充実	・ 体育施設指定管理者及び総合型地域スポーツクラブ等による、初心者、子ども、若者世代など全世代を対象とした様々なスポーツ教室を開催
2. 学校体育及び部活動の充実	・ 全国体力・運動能力運動習慣等調査をもとに、市内すべての学校で体力向上1校1取組運動を実施 ・ 部活動指導員配置事業や中体連の運営費や各種大会等への助成
3. アスリートの競技力向上	・ 国際大会等での活躍が期待されるジュニアアスリートを「市トップアスリート」等に認定し、活動費を助成 ・ プロ選手等を講師に招聘し、ジュニア向けのスポーツ教室を開催

【目標の達成状況】

成人の週1回以上のスポーツ実施率 《目標：未達成》	R1	目標	R6実績
	43.8%	65%程度	55.6%

目標には届いておりませんが、令和元年調査時点よりも 11.7 ポイント上昇しました。

小中学生の学校体育以外での運動実施率 《目標：未達成》	H30	目標	R6実績
	77%	85%以上	83%

目標値には届かなかったものの、平成 30 年度よりも6ポイント上昇しました。

◆ 今後の課題 ◆

- 仕事や家事等で忙しい若者世代(20～50代)のスポーツ実施率向上
- 学校部活動の地域への展開
- 連携協定を締結したプロチームや久留米大学等と連携した事業の充実



ルリー口福岡とのホームエリアに関する協定

施策の方向性B スポーツ「人材」の充実

具体的施策	主な取組
1. 指導者の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体罰防止や熱中症予防等の国県等からの各種情報を随時ホームページ等に掲載し、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、学校施設開放運営委員会、市スポーツ協会加盟競技団体に対し周知 ・ 市のジュニアアスリートスポーツ講習会をはじめ、市スポーツ協会が行うスポーツ医科学講座、スポーツ推進委員を対象とした各種研修会等による、スポーツ指導者の資質向上
2. スポーツ関連団体の組織強化・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市スポーツ協会運営費の補助により協会の安定的な運営基盤を強化するとともに、協会加盟競技団体や国県、その他の関係機関と連携し競技大会の補助や指導者養成等の事業を充実

【成果指標の達成状況】

スポーツ指導者養成講習会・研修会の受講者数	H30	目標	R6実績
《目標:達成》	364人	400人以上	629人

目標を200人以上超える指導者が研修を受講しました。

◆ 今後の課題 ◆

- スポーツ指導者並びに障害者スポーツ指導者、スポーツ推進委員、ボランティアスタッフの人材発掘・育成
- 福岡県スポーツリーダーバンクや久留米市LLアドバイザーの活用



紫灘旗全国高校遠的弓道大会での学生スタッフ



ニュースポーツ指導者講習会

施策の方向性C スポーツ「場」の充実

具体的施策	主な取組
1. スポーツ施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の社会体育施設の管理運営について、公募により民間団体等を指定管理者として選定 ・体育施設の修繕等について、小規模なものは指定管理者、大規模なものは市が計画的に推進 ・照明設備の計画的なLED化
2. スポーツを身近にできる場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や校区コミュニティ組織、スポーツ推進委員等で構成する学校施設開放運営委員会により、学校体育施設を地域の社会体育団体等へ無料で開放 ・体育施設指定管理者の自主事業により様々なスポーツ教室を開催し、施設活用を促進

【成果指標の達成状況】

スポーツ施設の利用者数	H30	目標	R6実績
《目標：未達成》	1,580,932 人	200 万人以上	1,855,425 人

目標には届かなかったものの、平成 30 年度より 27 万人を超える方が利用しました。

学校施設開放事業利用者数	H30	目標	R6実績
《目標：未達成》	771,660 人	80 万人以上	664,502 人

目標には届かず、平成 30 年度時点より 10 万人以上減少しています。

ただし、下表の推移のように、コロナ禍で落ち込んだ後の回復傾向は続いています。

【参考】学校施設開放事業の利用者数推移

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数	771,660	701,495	500,032	410,689	615,292	642,370	664,502

◆ 今後の課題 ◆

- 老朽化している施設の維持・補修
- 若者世代が楽しめるアーバンスポーツ施設等の整備



荘島体育館照明 LED 化(R4)

施策の方向性D スポーツを通じた、生きがいもてる社会の実現

具体的施策	主な取組
1. 生きがい・仲間づくりの推進	・ 体育施設指定管理者や総合型地域スポーツクラブ等により、高齢者向けの様々なスポーツ教室を開催
2. 健康づくりの推進	・ 「市民ラジオ体操の集い」開催、校区コミュニティ組織が実施するウォーキング大会への補助金交付、スマートフォンアプリを活用した「くるめ健康のびのびポイント事業」により市民の日々の健康づくりの取組を促進
3. 障害者スポーツの普及促進	・ パラリンピック種目体験会による障害者スポーツに触れる機会の創出及び参加人口を増加

【成果指標の達成状況】

成人のスポーツ未実施率	R1	目標	R6実績
《目標：未達成》	21.7%	15%以下	16.4%

目標には届かなかったものの、令和元年度調査時点より5.3ポイント下がりました。

障害者スポーツ大会・スポーツイベント等の参加者数	H30	目標	R6実績
《目標：達成》	422人	600人以上	688人

目標を80名以上超える参加がありました。

◆ 今後の課題 ◆

- 教室等参加者の固定化、無関心層への効果的な取組方法
- 障害の有無にかかわらず、また若者世代がスポーツを楽しめる環境整備

施策の方向性E スポーツを活かした地域の活性化

具体的施策	主な取組
1. スポーツコンベンションによる地域活性化	・ 九州・全国レベル、広域的スポーツ大会の開催を支援
2. 観戦型スポーツイベントの充実	・ ユー・エス・イーカップ国際女子テニスやバレーボールVリーグ、ラグビーリーグワン、九州プロレス、バスケットボールBリーグなどと連携、支援
3. スポーツ関連情報の発信	・ 広報久留米や市公式ホームページ、市公式LINE、記者クラブへのプレスリリース、体育施設指定管理者等のホームページにて随時情報を発信

【目標の達成状況】

スポーツコンベンション経済波及効果 《目標：未達成》	H30	目標	R6実績
	4億7千 3百万円	5億円以上	2億8千万円

目標には届かず、平成30年度時点よりも1億9千2百万円以上減少しています。

[参考] 経済波及効果の推移(単位:千円)

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
効果額	473,496	436,123	18,688	96,674	254,715	440,821	280,543

大規模大会の年間開催件数 《目標：達成》	H30	目標	R6実績
	4回	5回以上	7回

目標数を超える大規模大会を開催することができました。

◆ 今後の課題 ◆

- 大規模スポーツ大会誘致制度の創設
- ホームページやLINE等デジタルツールを活用した情報発信



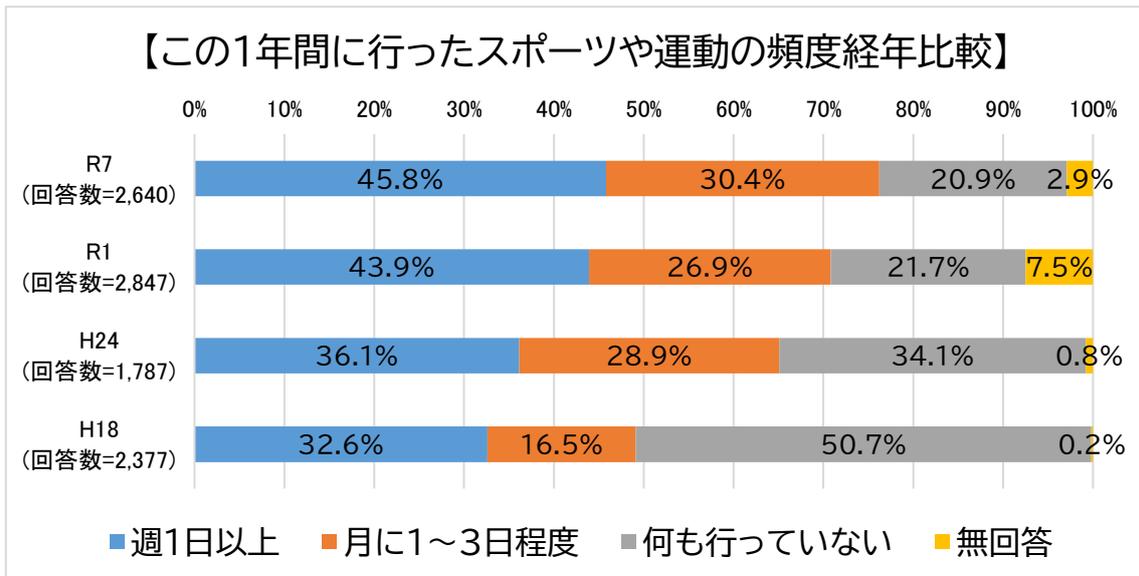
令和6年インターハイハンドボール競技大会

2. 市民意識調査から見える現状と今後の方向性

令和7年に市が実施した市民意識調査及び過去の調査の結果から、久留米市民のスポーツに関する意識や実態の把握を行いました。

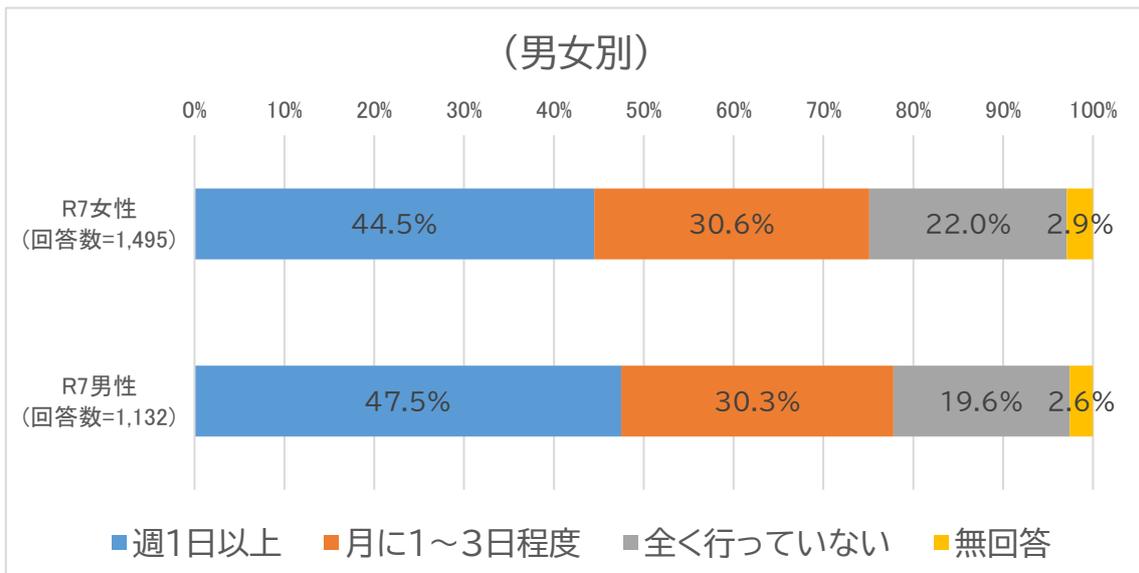
※ 令和7年調査の数値は11月現在の速報値です。

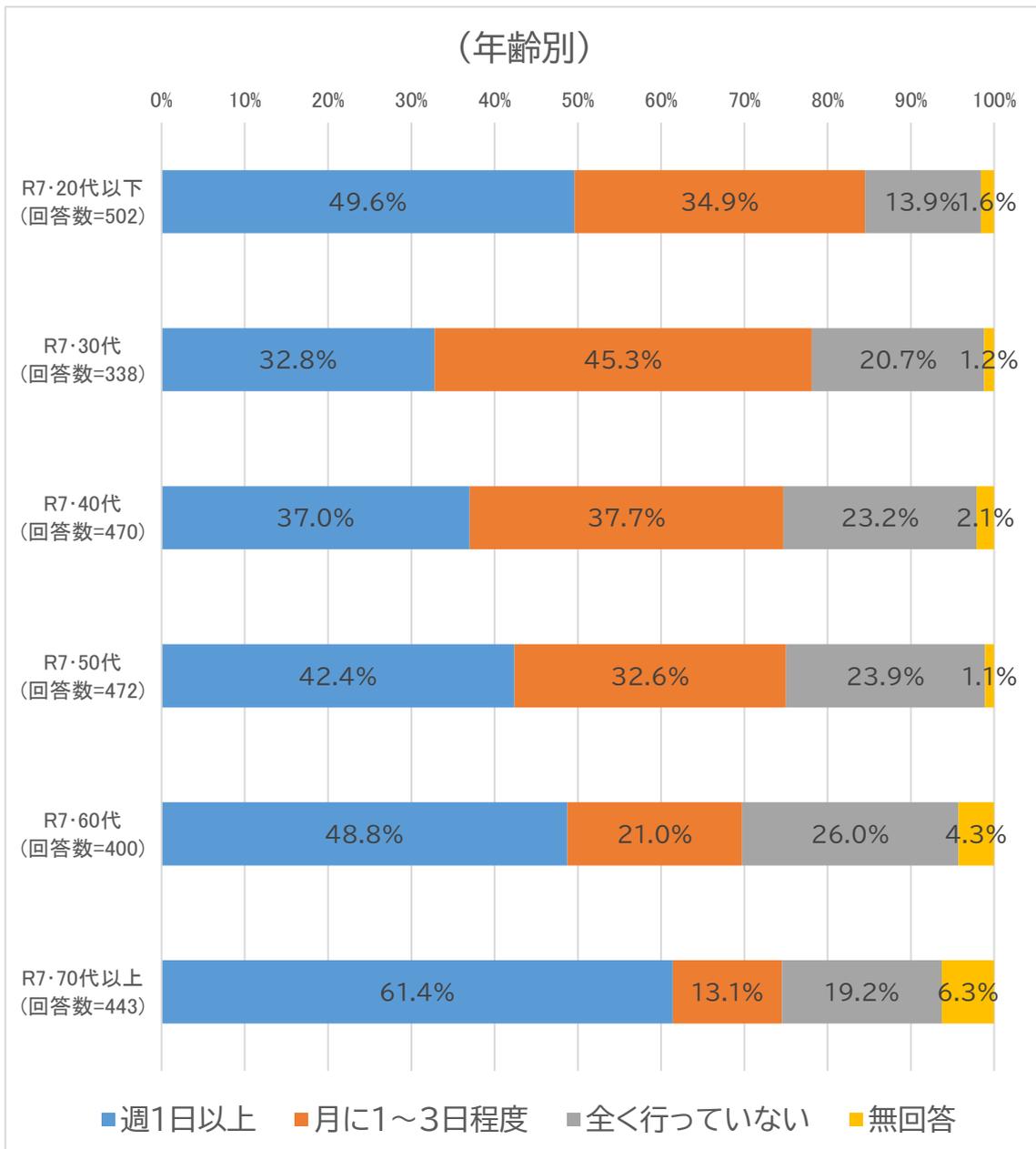
(1) この1年に行ったスポーツや運動の頻度



この1年に行ったスポーツや運動の頻度が「週に1日以上」と回答した人は45.8%で、令和元年以前に比べ、徐々に高くなっています。

なお、国の調査(令和6年)では、同実施率は52.5%です。

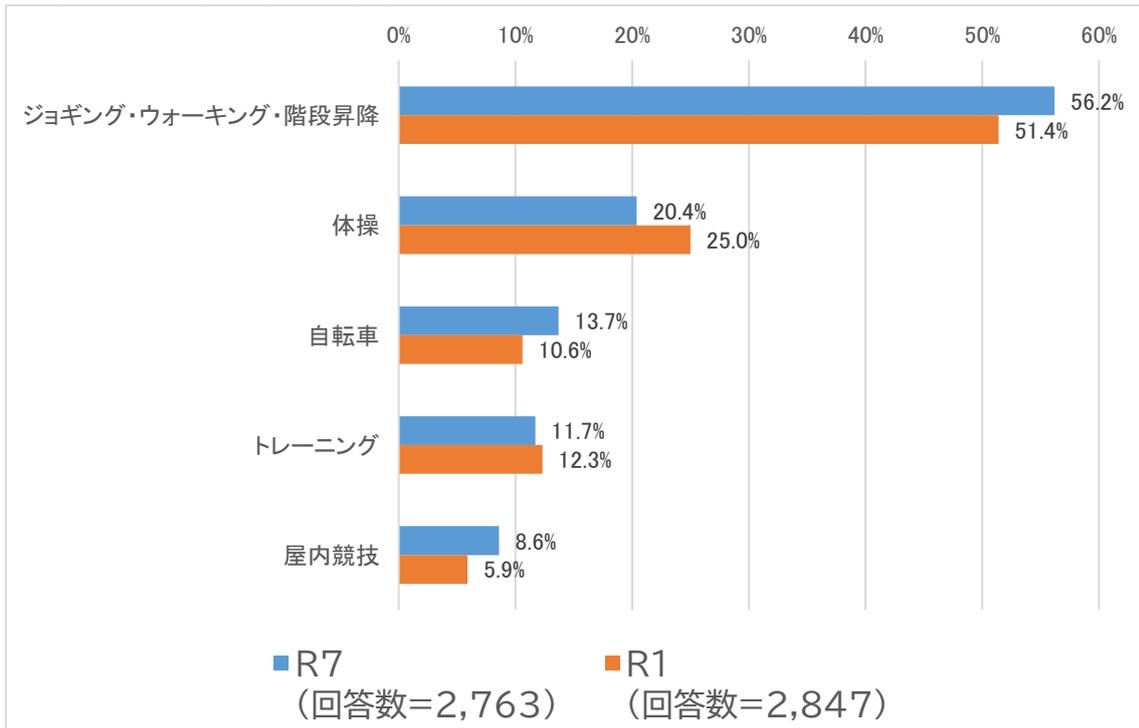




男女別の週1日以上のスポーツ・運動実施率は男性 47.5%、女性 44.5%で、男女差がある状況です。(国の調査:男性 55.6%、女性 49.6%)

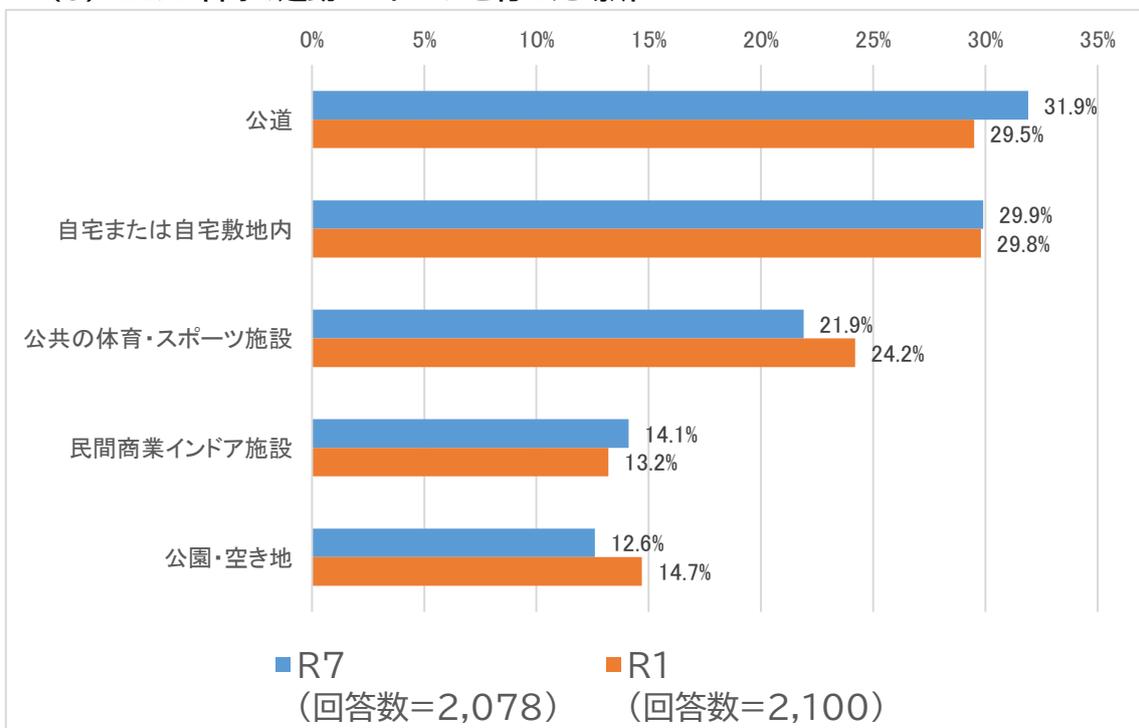
また、年齢別には 30 代が一番低く、以降年齢が上がるにつれスポーツ・運動実施率が高くなっています。なお、国の調査では、20 代から 40 代に向け低くなり、40 代を底に高年代ほど高くなっています。

(2) この1年で行った運動・スポーツ



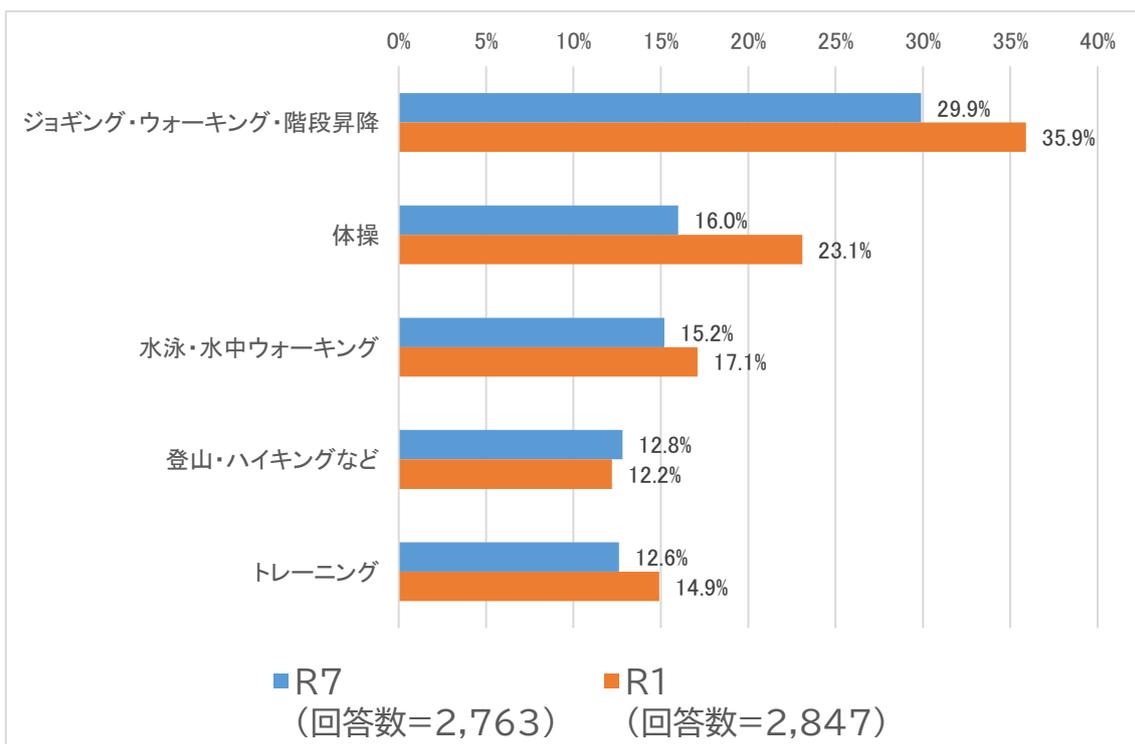
上位5項目を抜粋し、令和元年と比較。ウォーキングや体操といった身近な場所で行える運動・スポーツが上位を占めています。

(3) この1年間で運動・スポーツを行った場所



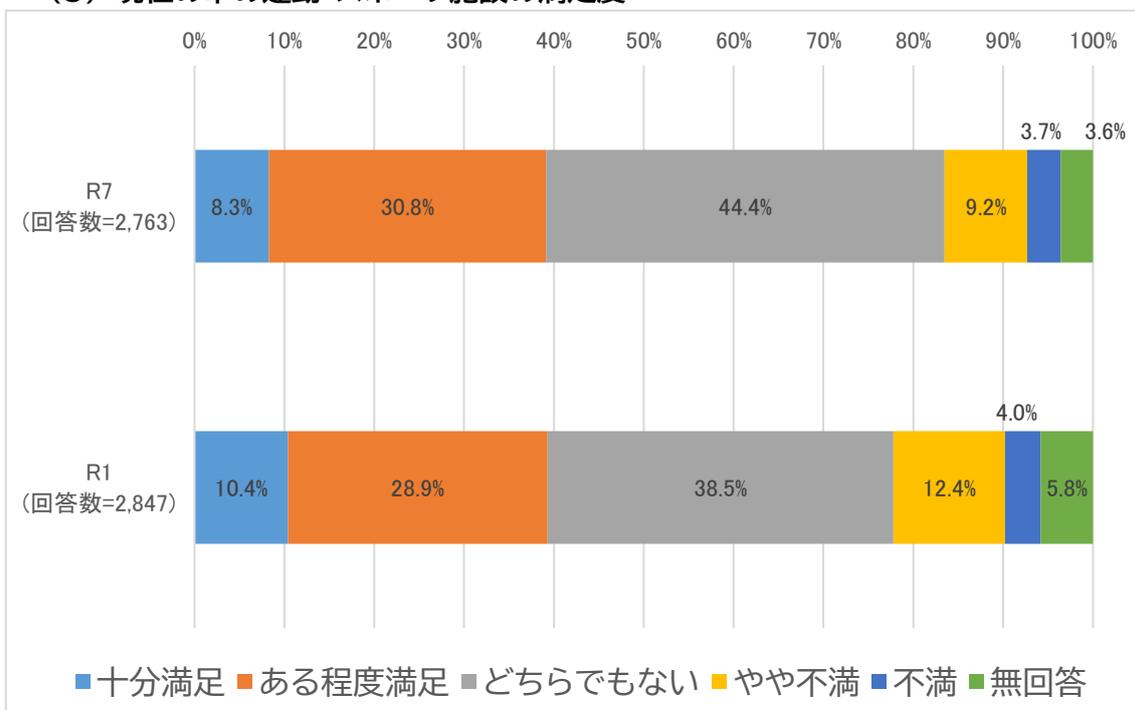
上位5項目を抜粋し、令和元年と比較。公道や自宅など、身近な場所で運動・スポーツを行う割合が増えています。

(4) 今後やってみたい運動・スポーツ



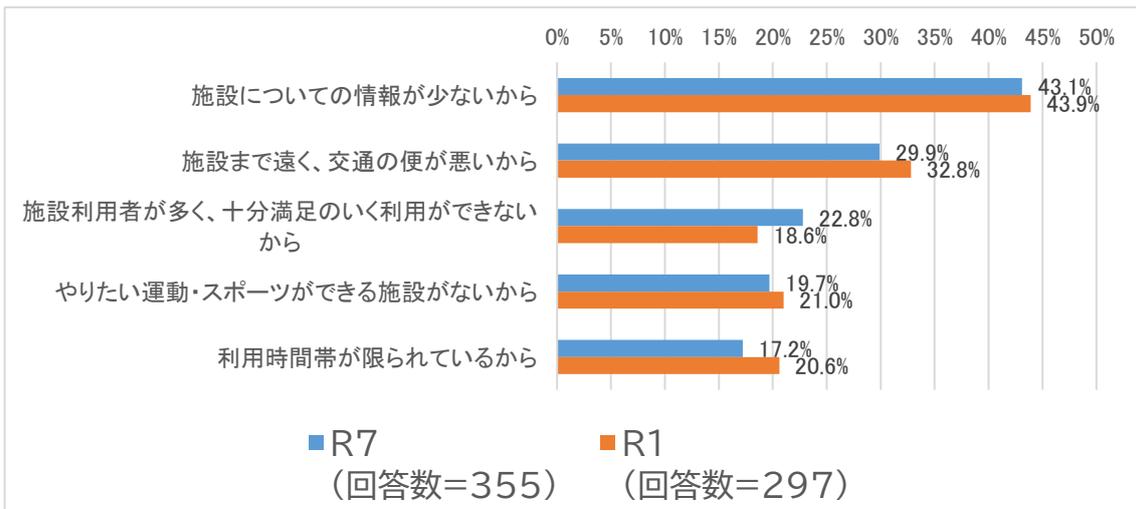
上位5項目を抜粋し、令和元年と比較。ウォーキングや体操といった身近な場所のできる運動・スポーツが上位を占めています。

(5) 現在の市の運動・スポーツ施設の満足度



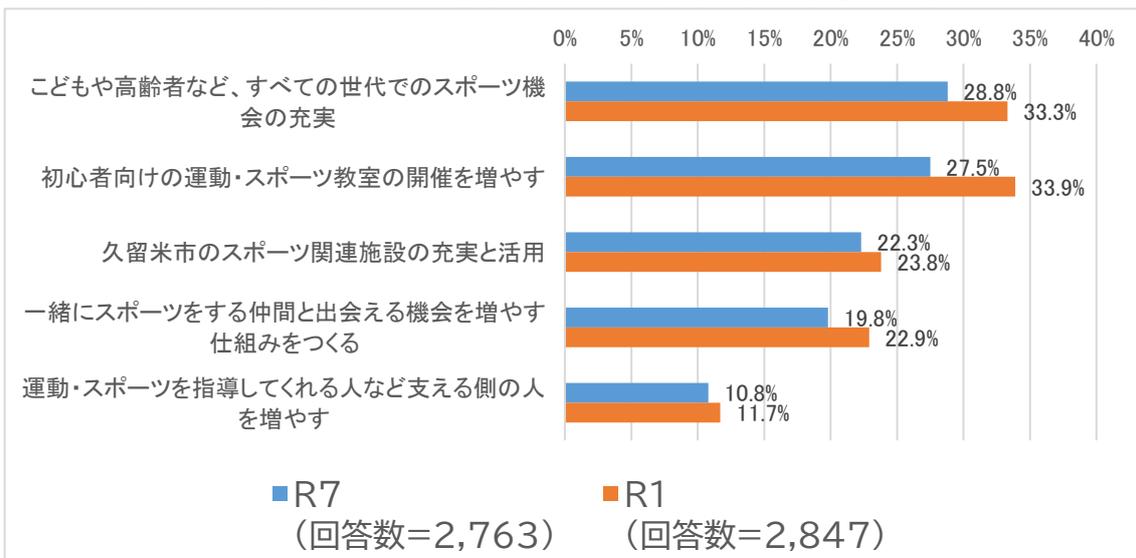
令和元年と比較すると、満足している割合は 0.2 ポイント減少し、不満の割合は 3.5 ポイント減少しています。

(6) 現在の市の運動・スポーツ施設に不満の理由



上位5項目を抜粋し、令和元年と比較。施設に関する情報の少なさについては、ポイントは減少したものの上位を占めています。

(7) 今よりもっとスポーツに親しむために市に力を入れて欲しいこと



上位5項目を抜粋し、令和元年と比較。すべての世代でのスポーツ機会の充実や初心者向けスポーツ教室を増やす等、スポーツの「場」の充実、ささえる人に関する期待の意見が多くなっています。

【今後の施策の方向性】

- 男女別では女性、年代別では30代を中心とした若者世代・現役世代の運動・スポーツ実施率の向上を目指す取組が必要。
- スポーツをより身近にできる環境づくり。
- 年代を問わずあらゆる市民がスポーツに親しむことができる機会を充実させるため、更なる情報発信の強化が必要。

3. スポーツ関係団体からの意見について

スポーツの関係団体に対し、本市のスポーツ推進に関する課題等についてアンケートを取り、次期計画策定に向けた情報収集を行いました。

【意見を聴取した関係団体】

市陸上競技協会、市手をつなぐ育成会(障害者関係団体)、福岡県高校体育連盟、市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、市(都市建設部、上下水道部、総合支所)

分類	市のスポーツ推進を図る上での課題	市が何に力を入れたらもっとスポーツ推進が図られるか
する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の地域移行に伴い、生徒数減少を上回るペースでの競技人口減少を懸念。 ○ スケートボード等の次世代スポーツができる施設整備。スケボーパーク設置を求める400名超の署名が提出されており、若者の声が多数挙がる状況はスポーツ推進を図る上で課題。 ○ 夜や早朝でも歩ける安全な運動場所の確保。 ○ 可処分時間(育児や介護、仕事以外の余暇)が少ない。 ○ 運動実施率が低い成人年齢層への対応。 ○ 運動・スポーツをすることもとそうでないこどもの二極化。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢や性別、障害の有無に関係なく誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの企画。 ○ 小中高校への出張スポーツ教室等のイベントを通して若い世代にスポーツの楽しさを伝える取組。 ○ 学校施設開放の異種目チーム間による利用時間の確保が難しいため、ジュニアチームへの学校以外の体育施設を無料貸出。 ○ 地域スポーツ団体の高齢化及び担い手不足が進む中、スポーツに対する敷居を低くするための体験講座や生涯スポーツ推進。
みる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民のスポーツに対する関心・意識の向上を図るため、全国・世界大会の誘致など、充実している市の体育施設の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロスポーツチームの誘致。 ○ 世界中から合宿や大会を誘致するため、特定の競技に特化した「メッカ、聖地」づくり。
つなげる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校運動部活動がなくなると、競技団体会員の多くを占める部活動顧問の退会が想定。競技団体の存続や活動に支障をきたす事を懸念。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動地域移行に関わる指導者支援。 ○ 部活動指導のレベルアップ、教員の働き方改革に寄与するため、指導者の民間委託。 ○ 施設や指導者確保、資金面が厳しい総合型地域スポーツクラブ運営への補助金等支援。

【今後の施策の方向性】

- 中学校部活動の円滑な地域移行
- スケートボード等アーバンスポーツ施設整備の検討

4. こどもの運動・スポーツの習慣に関するアンケートについて

市立学校の児童生徒に対し、「市民意識調査」の内容に準じたアンケート調査を実施しました。

(1) 対象:市立学校の児童生徒

- ・小学1～3年及び特別支援学校小学部の児童は、保護者が代弁する形式
- ・小学4～6年及び特別支援学校中学部高等部、中学高校の児童生徒は、本人が直接回答(回答は任意)

(2) 調査期間:令和7年9月10日(水)～令和7年10月10日(金)

(3) 調査手法:電子申請方式による各学校を通したオンライン調査回答

(4) 調査項目:

- ・この1年間で行った運動・スポーツ(学校体育を除く)、及びその頻度、場所
- ・今後やってみたい運動・スポーツ
- ・現在の市内運動・スポーツ施設に対する満足度、及び不満の理由
- ・今よりもっとスポーツに親しむために久留米市に力を入れて欲しいこと

【サンプル数】

選択肢	数	割合
小学1年	687	9.7%
小学2年	778	11.0%
小学3年	635	9.0%
小学4年	1,650	23.3%
小学5年	1,620	22.9%
小学6年	1,702	24.1%
小学校計	7,072	100%

選択肢	数	割合
中学1年	1,598	35.7%
中学2年	1,348	30.1%
中学3年	1,536	34.3%
中学校計	4,482	100%

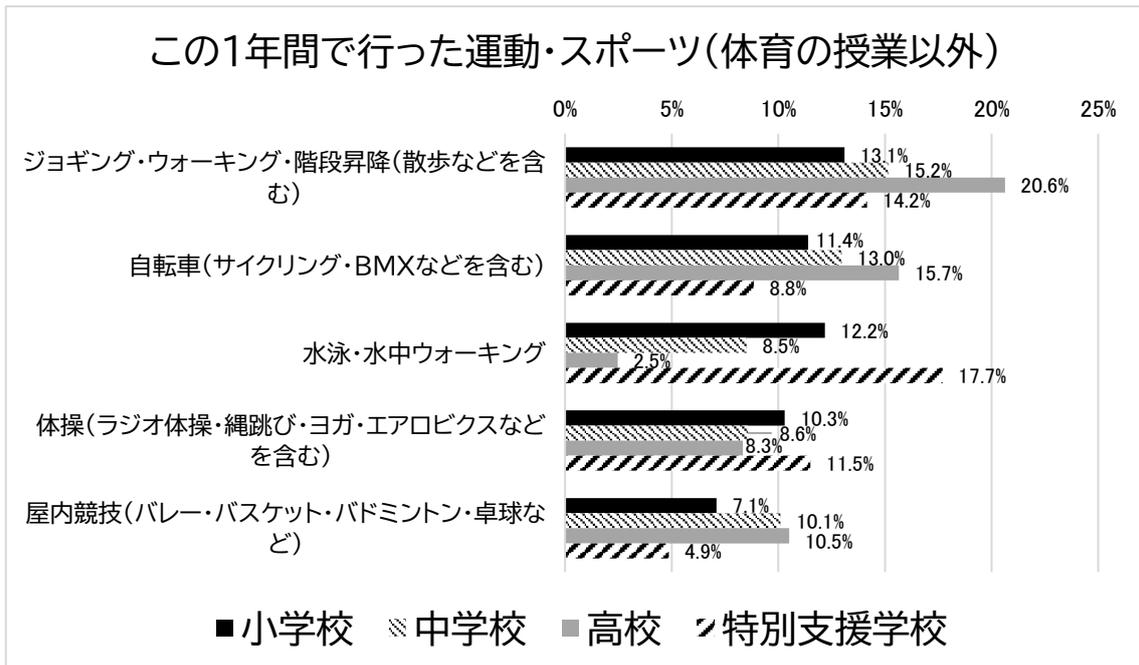
選択肢	数	割合
高校1年	317	36.8%
高校2年	283	32.9%
高校3年	261	30.3%
高校計	861	100%

選択肢	数	割合
小学部1年	21	26.9%
小学部2年	19	24.4%
小学部3年	16	20.5%
小学部4年	6	7.7%
小学部5年	7	9.0%
小学部6年	7	9.0%
中学部1年	1	1.3%
中学部2年	1	1.3%
中学部3年	0	0.0%
高等部1年	0	0.0%
高等部2年	0	0.0%
高等部3年	0	0.0%
特別支援学校計	78	100%

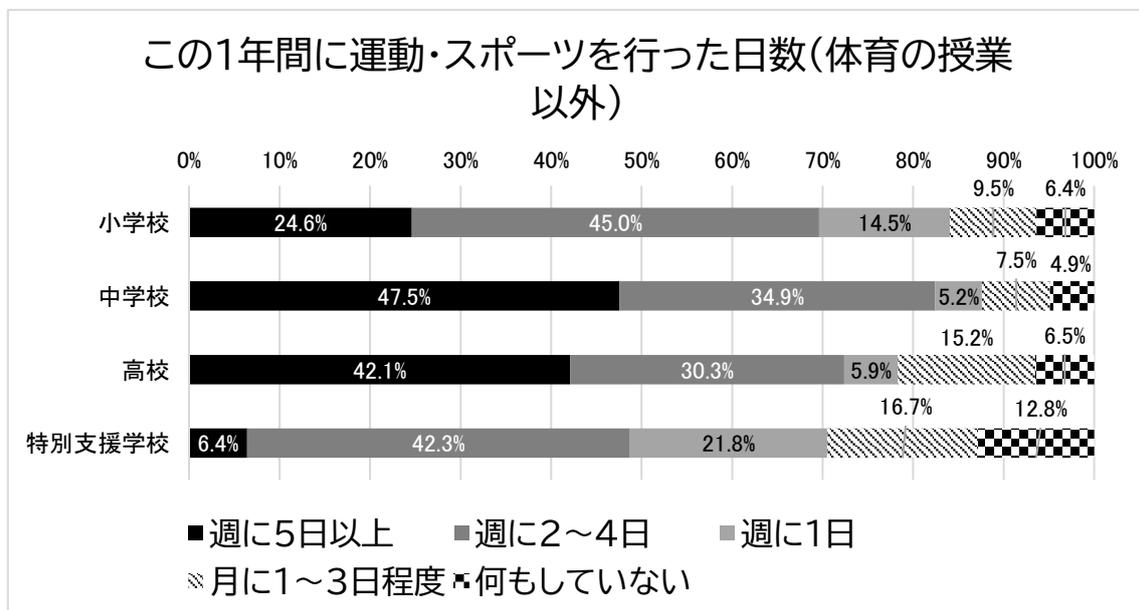


アビスパ福岡サッカー教室

(5) 調査結果:

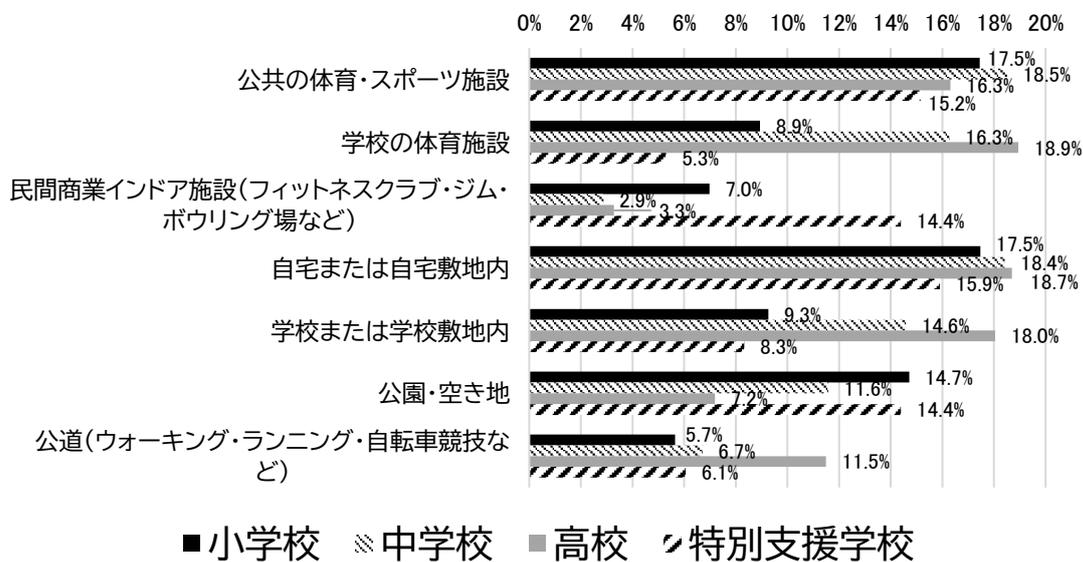


主なものを抜粋しています。ジョギングやウォーキング、自転車、体操等、特段の施設を必要とせず身近にできるスポーツが上位を占めています。また高校以外は水泳の割合も高くなっています。



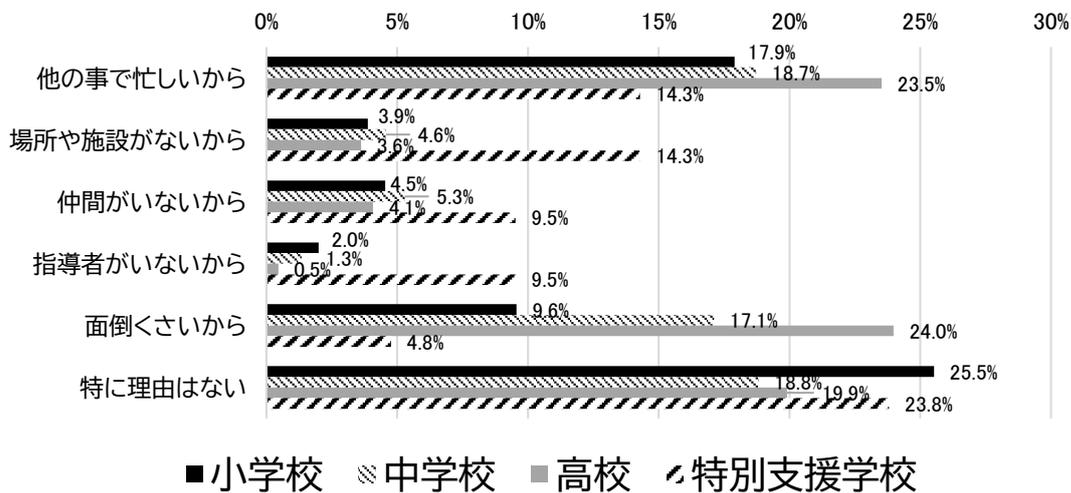
週1日以上のスポーツの実施率については、小学校 84.1%、中学校 87.6%、高校 78.3%、特別支援学校 70.5%となっています。中学校や高校の週5日以上の高割合は運動部活動の影響、小学校の週2~4日の割合が高いのはジュニアスポーツクラブ等の習い事の影響が考えられます。

この1年間で運動・スポーツを行った場所(体育の授業以外)

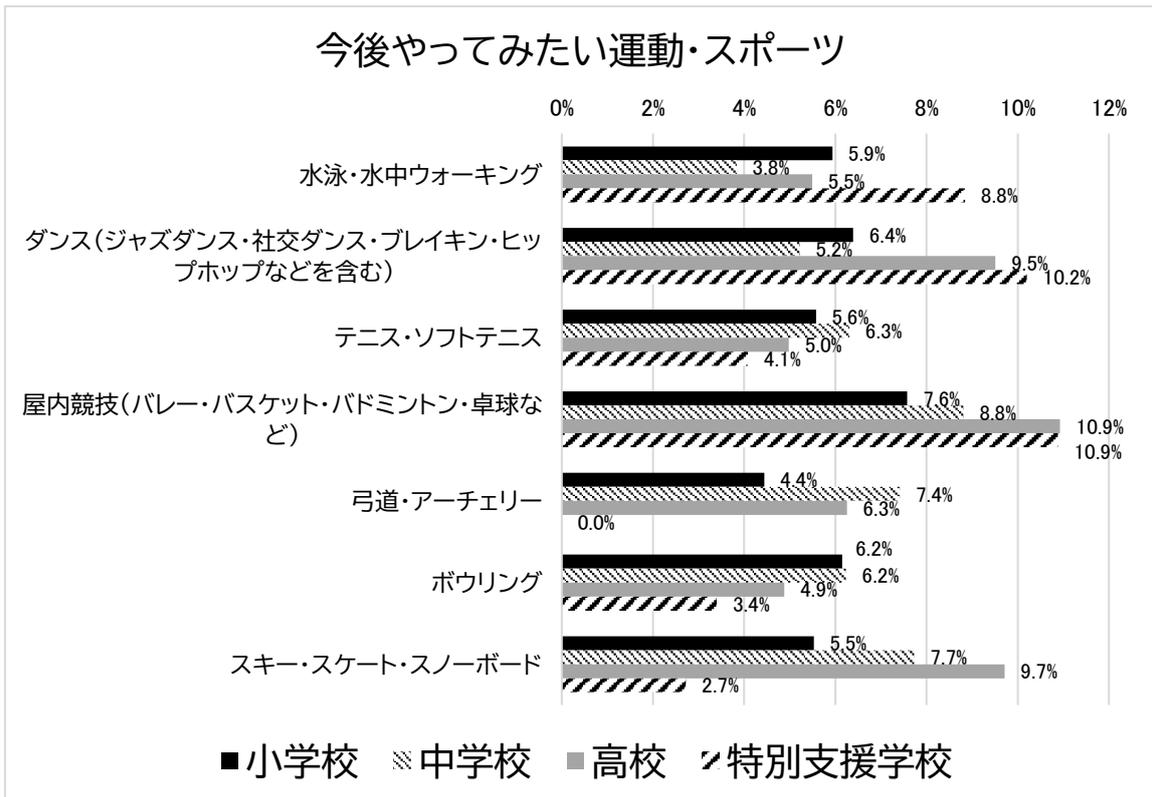


主なものを抜粋しています。自宅や学校、公園空き地等、身近な場所の割合が高く、また社会体育施設の割合も高くなっています。

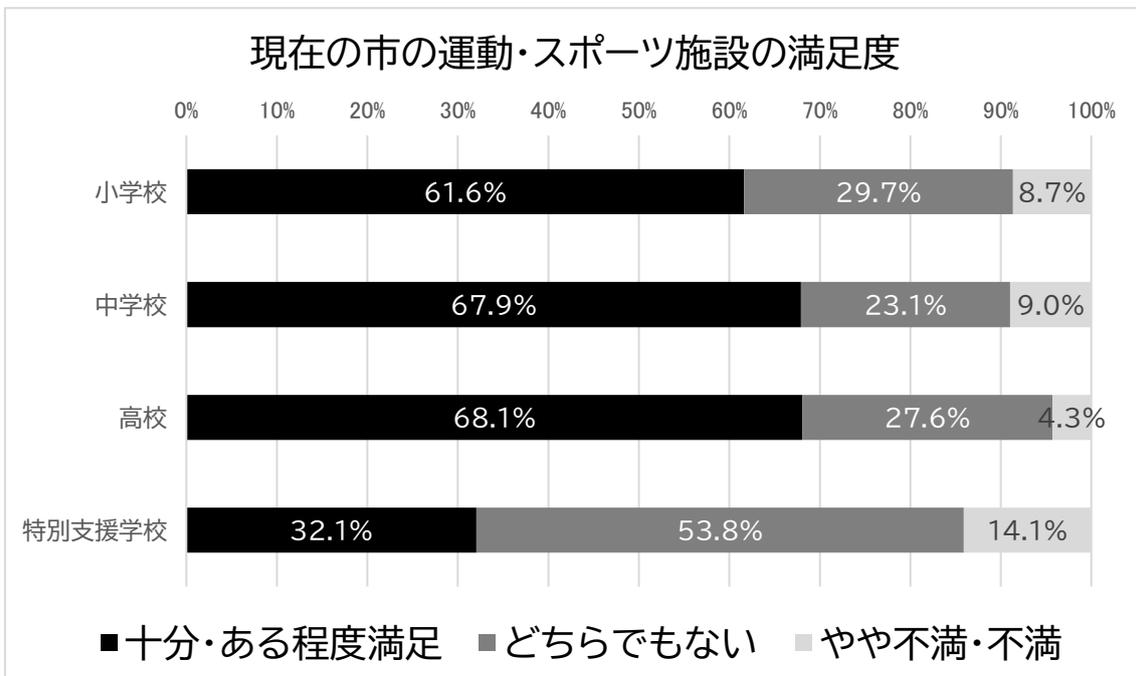
運動・スポーツをしなかった・できなかった理由(体育の授業以外)



主なものを抜粋しています。他の事で忙しいとか、面倒くさい等の割合が高いものの、特に理由がないという理由が顕著となっています。また特別支援学校においては、施設がない事や仲間・指導者がいない事が挙げられており、自宅等から長距離の移動ができなかったり、共にスポーツに親しむ人がいない事でスポーツの実施が困難になっていると推察されます。

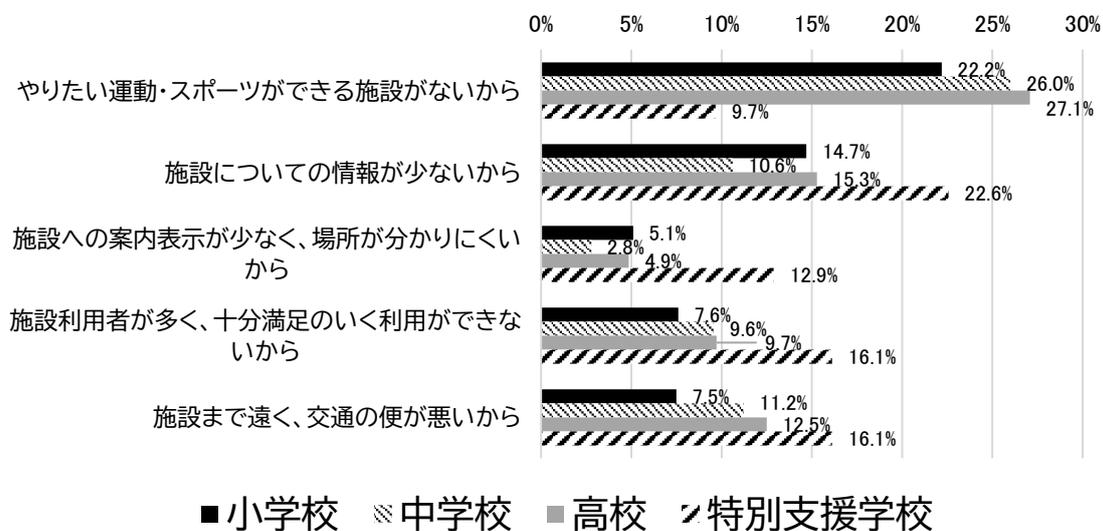


主なものを抜粋しています。ダンスや屋内競技の人気が高くなっています。高校においてはスキー・スケート・スノーボードといったウィンタースポーツの人気も高くなっています。



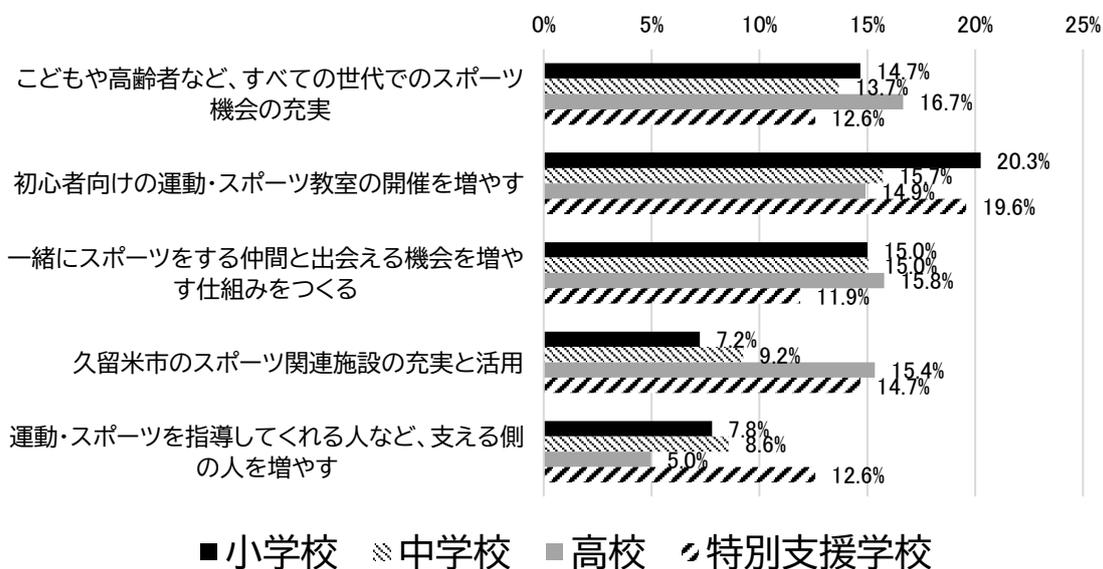
十分・ある程度含めた満足度に関しては、小・中・高校は 50%を超えています。特別支援学校は 32.1%と低くなっています。

市内運動・スポーツ施設に不満の理由



主なものを抜粋しています。やりたい運動・スポーツができる施設がない、また施設に関する情報が少ないといった理由の割合が高くなっています。また特別支援学校に関しては、施設まで遠いため気軽に利用できないのが不満要素となっているようです。

スポーツに親しむために久留米市に力を入れて欲しいこと



主なものを抜粋しています。初心者向けのスポーツ教室を増やす事や、全ての世代でのスポーツ機会の充実、仲間と出会える機会を増やす仕組み等が求められています。また高校や特別支援学校に関してはスポーツ施設充実への期待値も高くなっています。特別支援学校にとってはスポーツ活動を支えてもらえる人材の育成も求められています。

【今後の施策の方向性】

- 初心者向けの運動・スポーツ教室の開催を増やし、様々なスポーツに触れる機会を創出する取組が必要。
- こどもから高齢者まで年代を問わずあらゆる市民がスポーツに親しむことができる機会を充実させるため、更なる情報発信の強化が必要。
- こどもたちが一緒に運動・スポーツをする仲間と出会える機会を増やす仕組みの検討が必要。
- 障害を持ったこどもたちがスポーツに親しむことのできる環境づくり。



筑後川 E ポートフェスティバル



パラスポーツ体験会